

第75期 定時株主総会

 日清食品ホールディングス株式会社

2023年6月28日(水曜日)





対処すべき課題

1. 本文中に特別な記載がない限り、本事業報告中の記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。
ただし、億円単位の表示は億円未満を四捨五入し、また、基本的1株当たり当期利益(1株当たり当期純利益)、1株当たり親会社所有者帰属持分(1株当たり純資産)及び百分率については、表示単位未満を四捨五入して表示しております。
2. 記載金額には消費税等は含まれておりません。



2022年度 通期連結 決算サマリー

	2022年度	2023年度
売上収益	6,692 億円	7,100 億円
既存事業コア営業利益	602 億円	640 億円
(新規事業への積極先行投資：既存事業コア営業利益対比 5～10%)		
営業利益	556 億円	575～605 億円



2023年度 通期連結業績計画

	2022年度	2023年度
売上収益	6,692 億円	7,100 億円
既存事業コア営業利益	602 億円	640 億円
(新規事業への積極先行投資：既存事業コア営業利益対比 5～10%)		
営業利益	556 億円	575 ~ 605 億円

* 計画に係る円表示数値は全て22年度実績レート

第75期 定時株主総会



中長期成長戦略2030の骨子

既存事業の キャッシュ創出力強化

海外+非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
“未来の食”
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ



中長期成長戦略2030の骨子

既存事業の キャッシュ創出力強化

海外+非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
“未来の食”
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ

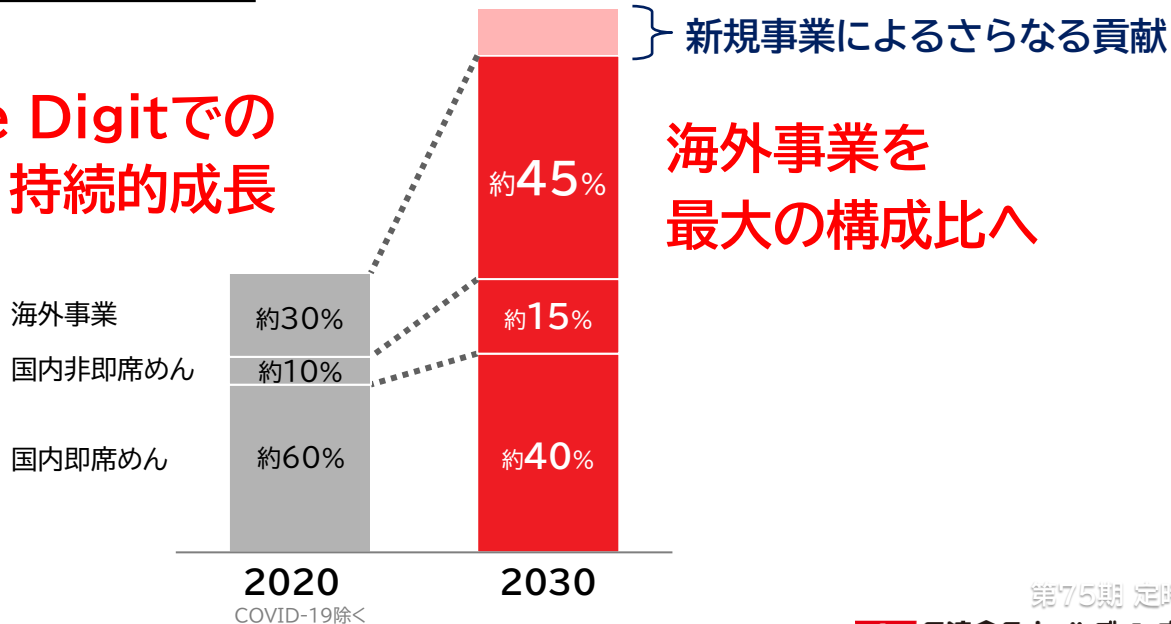


利益の持続的な成長のためのポートフォリオマネージメント

海外事業のアグレッシブな成長によって、
利益ポートフォリオを大きくシフトさせながら持続的成長を追求する。

利益成長とポートフォリオ変化イメージ

Mid-single Digitでの
持続的成長

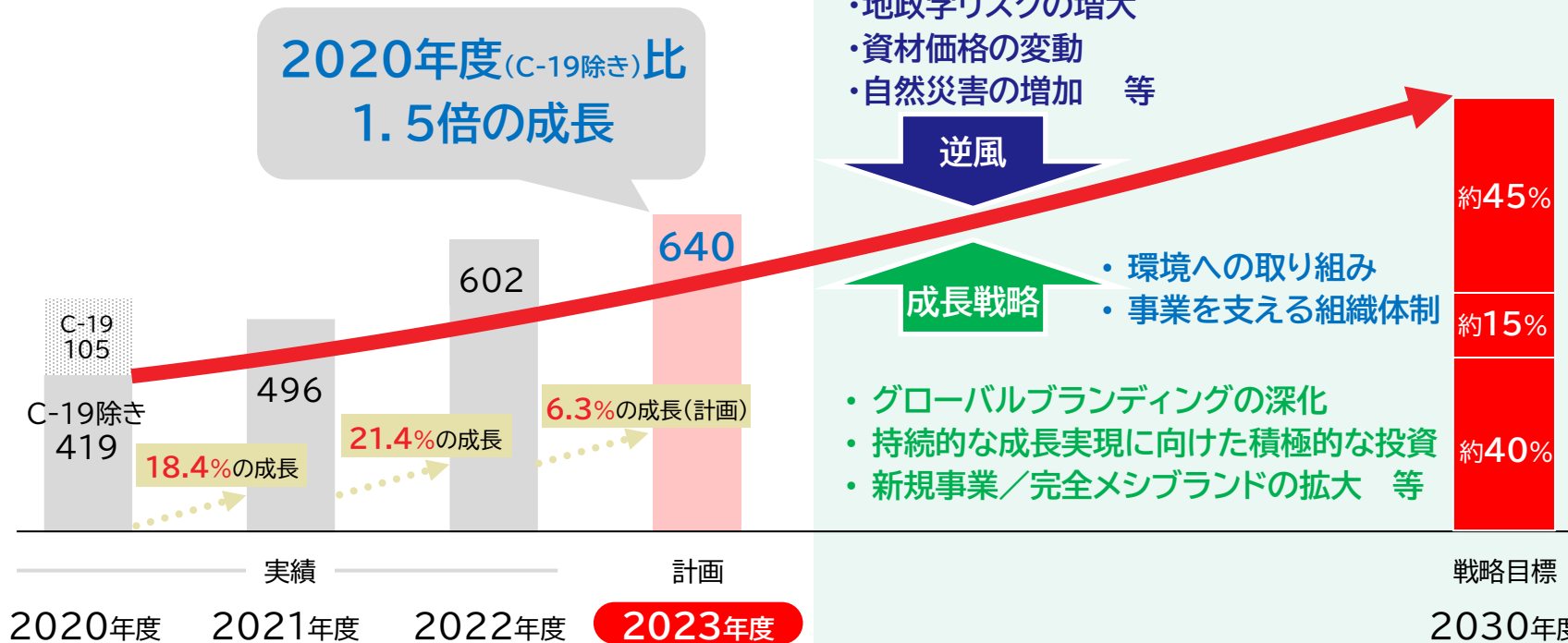


海外事業を
最大の構成比へ



中長期成長戦略2030 (2021年度 - 2030年度)

既存事業コア営業利益 (億円)



不確実性のもとでの更なる成長

- ・地政学リスクの増大
- ・資材価格の変動
- ・自然災害の増加 等

逆風

成長戦略

- ・環境への取り組み
- ・事業を支える組織体制

- ・グローバルブランディングの深化
- ・持続的な成長実現に向けた積極的な投資
- ・新規事業/完全メシブランドの拡大 等

約45%

約15%

約40%

戦略目標

2030年度



今後の方向性(事業部門別)

国内即席めん事業

国内非即席めん事業

海外事業

コア営業利益には持分法損益含む

高付加価値製品の拡充

高付加価値戦略の
シフトを加速

高付加価値戦略の継続

適正価格の定着、数量維持

グローバルブランディングの
強化

生産体制強化、効率性向上



第75期 定時株主総会



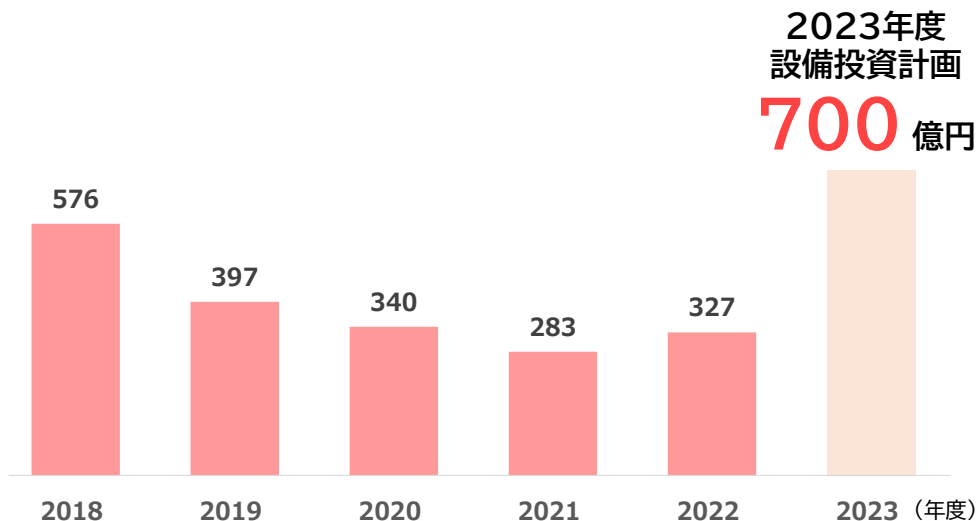
日清食品ホールディングス株式会社



2023年の設備投資計画①

世界的な即席めん需要の高まりに対応するため、
2023年度は国内外を含め700億円の設備投資を計画。

設備投資推移 (億円)



2023年度の主な投資

- 日清食品新関東工場：土地取得
- 米国日清：第3工場設立
- ブラジル日清：更新投資等
- 日清ヨーク：ピルクルブランド増産対応
- その他、国内外工場ライン増設など



2023年の設備投資計画②

日清食品の新工場建設のため、茨城県つくばみらい市に工事用地を取得。

新関東工場 -概要-

新たな食文化を発信する「フラッグシップ拠点」
として地域社会との共生を目指す。

- 面積:33ヘクタール(関東工場の約3倍)
- 操業開始予定:2026年度



茨城県庁に大井川和彦知事(右)を表敬した安藤徳隆(左)
=2022年10月28日、茨城県提供



中長期成長戦略2030の骨子

既存事業の キャッシュ創出力強化

海外＋非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
“未来の食”
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ



目標と実績

資源有効活用へのチャレンジ

2030年に向けた目標

直近実績



持続可能なパーム油

100%

37.7%

2022年1月-12月



水使用量

IFRS売上収益100万円あたり

12.3m³以下

10.5m³*

2022年1月-12月



生産過程の再資源化率
(日本国内)

99.5%

99.8%

2021年1月-12月



販売・流通過程の廃棄物
15年度比/日本国内

△50%

△47%

2021年1月-12月

気候変動問題へのチャレンジ

2030年に向けた目標

直近実績



CO² 排出削減:SCOPE1+2

18年度比 △30%

基準値:41.6万t-CO²

△4.0%

2022年1月-12月

39.9万t-CO²



CO² 排出削減:SCOPE3

18年度比 △15%

基準値:306.8万t-CO²

0.4%

2020年1月-12月

308.1万t-CO²

※CO² 排出削減および流通廃棄物削減率は、湖池屋を含まない

第75期 定時株主総会



日清食品ホールディングス株式会社



SCOPE1 + 2(自社の工場等によるCO² 排出分)

気候変動問題へのチャレンジ

2030年に向けた目標



CO² 排出削減:SCOPE1+2
18年度比 $\Delta 30\%$
基準値:41.6万t-CO²

直近実績

$\Delta 4.0\%$

2022年1月-12月
39.9万t-CO²

主な取り組み

再生可能エネルギー由来の
電力への切り替え促進



CO² 排出削減:SCOPE3
18年度比 $\Delta 15\%$
基準値:306.8万t-CO²

0.4%

2020年1月-12月
308.1万t-CO²

・包材や具材の改良
・環境に配慮した輸送

※CO² 排出削減および流通廃棄物削減率は、湖池屋を含まない

第75期 定時株主総会



日清食品ホールディングス株式会社



SCOPE3(原材料の調達や商品の配送等によるCO² 排出分)

気候変動問題へのチャレンジ

2030年に向けた目標

CO² 排出削減:SCOPE1+2
18年度比 $\Delta 30\%$
基準値:41.6万t-CO²

直近実績

$\Delta 4.0\%$
2022年1月-12月
39.9万t-CO²

主な取り組み

再生可能エネルギー由来の
電力への切り替え促進



CO² 排出削減:SCOPE3
18年度比 $\Delta 15\%$
基準値:306.8万t-CO²

0.4%
2020年1月-12月
308.1万t-CO²

- ・包材や具材の改良
- ・環境に配慮した輸送

※CO² 排出削減および流通廃棄物削減率は、湖池屋を含まない

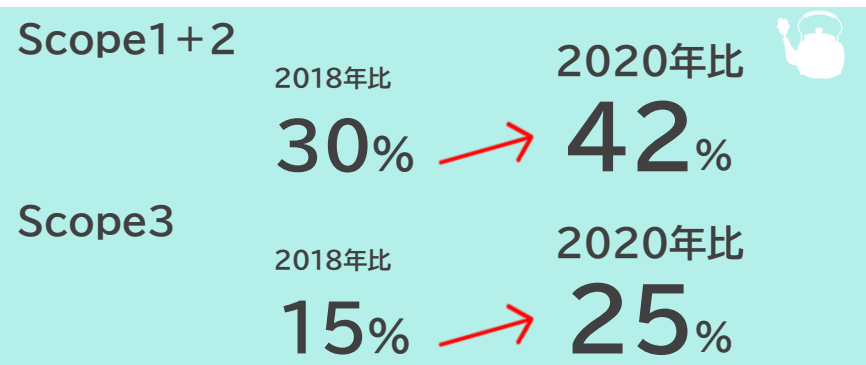
第75期 定時株主総会



削減目標の上方修正

1.5°C目標を意識し、2030年の削減目標を上方修正。
インターナルカーボンプライシング制度の導入により、「カーボンニュートラル」の達成へ。

2030年CO²削減目標 上方修正



インターナルカーボンプライシング制度導入



Nature Positive

「自然の損失を食い止め、自然を純増」



「CO² の排出量を全体としてゼロに」

Carbon Neutral

第75期 定時株主総会



インターナルカーボンプライシング制度の導入

1.5°C目標を意識し、2030年の削減目標を上方修正。
インターナルカーボンプライシング制度の導入により、「カーボンニュートラル」の達成へ。

2030年CO²削減目標 上方修正

Scope1+2

2018年比

30%



2020年比

42%



Scope3

2018年比

15%

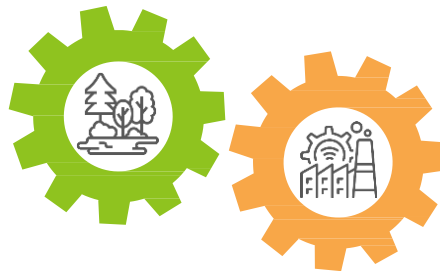


2020年比

25%

*Nature
Positive*

「自然の損失を食い止め、自然を純増」



インターナルカーボンプライシング制度導入

当社炭素価格

CO² 排出1トンあたり **21,600円**



*社内炭素価格は、CO² 排出量削減の進捗や外部環境の変化などを踏まえて適宜見直す

「CO² の排出量を全体としてゼロに」

*Carbon
Neutral*

第75期 定時株主総会



日清食品ホールディングス株式会社



中長期成長戦略2030の骨子

既存事業の
キャッシュ創出力強化

海外＋非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

EARTH FOOD
CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
“未来の食”
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ



現代の社会課題と新規事業のビジョン

オーバーカロリー



肥満など生活習慣病に関連のある病気による死亡率と医療費の増加

隠れ栄養失調



間違ったダイエット方法によってカロリーや栄養が不足した状態

フレイル



加齢により心身が衰えた状態で、低栄養が原因の一つとされる

見た目やおいしさはそのままに、カロリーや塩分、糖質、脂質などをコントロールし、必要な栄養素を整えた食事を実現

日清食品独自のフードテクノロジーで社会課題の解決を目指します!!

おいしく食べて
しっかり摂れる
33種類の栄養素



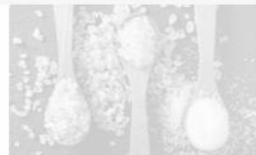
即席めんで培った加工技術やうまみ素材などを駆逐することで、栄養素が持つ独特のエグみや苦味を感じることなく、普段の食事と変わらないおいしさを実現

カロリーや脂質を
コントロール
バランスのとれた
三大栄養素



麺や米に栄養素や食物繊維を配合する技術や油分をカットする独自製法で、見た目やおいしさはそのままに、三大栄養素(たんぱく質、炭水化物、脂質)のバランスを最適化

少ない量でもちゃんと
おいしい
3.0g未満の塩分量



世界中から約170の塩を集めて研究を重ね、ミネラルやアミノ酸などを配合することにより、塩が少なくてもおいしく感じられる当社独自の減塩技術を確立





現代の社会課題と新規事業のビジョン

オーバーカロリー



肥満など生活習慣病に関連のある病気による死亡率と医療費の増加

隠れ栄養失調



間違ったダイエット方法によってカロリーや栄養が不足した状態

フレイル



加齢により心身が衰えた状態で、低栄養が原因の一つとされる

見た目やおいしさはそのままに、カロリーや塩分、糖質、脂質などをコントロールし、必要な栄養素を整えた食事を実現

日清食品独自のフードテクノロジーで社会課題の解決を目指します!!

おいしく食べて
しっかり摂れる
33種類の栄養素



即席めんで培った加工技術やうまみ素材などを駆逐することで、栄養素が持つ独特のエグみや苦味を感じることなく、普段の食事と変わらないおいしさを実現

カロリーや脂質を
コントロール
バランスのとれた
三大栄養素



麺や米に栄養素や食物繊維を配合する技術や油分をカットする独自製法で、見た目やおいしさはそのままに、三大栄養素(たんぱく質、炭水化物、脂質)のバランスを最適化

少ない量でもちゃんと
おいしい
3.0g未満の塩分量



世界中から約170の塩を集めて研究を重ね、ミネラルやアミノ酸などを配合することにより、塩が少なくてもおいしく感じられる当社独自の減塩技術を確立





「完全メシ」更なる飛躍に向けて

完全メシ シリーズ

2023年4月3日よりラインアップ拡大！



B to C



冷凍 完全メシ

オンラインストア向けシリーズ
2023年6月5日より11品に!!



デリカ(おにぎり・お弁当)・菓子等

おにぎり

お弁当

パン

菓子

社員食堂

自販機



BtoBtoC

健康経営の実現



「完全メシ」更なる飛躍に向けて

完全メシシリーズ

2023年4月3日よりラインアップ拡大！



B to C



冷凍 完全メシ

オンラインストア向けシリーズ
2023年6月5日より11品に!!



BtoBtoC

デリカ(おにぎり・お弁当)・菓子等

おにぎり



お弁当



パン



菓子



社員食堂



自販機





日清食品ホールディングス株式会社